
d e e p r e d a h o o d 『ショートストーリー その3』

チラリズム

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

deep red a hood ブショートストーリー その

3

【ZPDF】

N1533F

【作者名】

チラリズム

【あらすじ】

天使メアリが運命に立ち向かう恋の物語。

(前書き)

第3弾。

最後の掘り出し短編作品です。

「オーン。オーン。

教会から鈍い鐘の音が鳴り響き、森の鳥達が一斉に飛び去る。

教会の主である天使『メアリ』は今日で十六歳になる。

貧しい世の中。メアリの朝食は一つのバターパンとミルク、今日は特別にカボチャのスープを添えた。

「聖天使エリザベスよ……暖かい食事に心から感謝致します」

日差しを浴びた天使の銅像に祈りを捧げるメアリはゆっくりと目を開けて食事を済ませる。

コンコン。

門から戸を叩く音がするのを確認したメアリは少しばかり悩んでから門に向かつて叫んだ。

「七百十四年！」

すると門の向こうから男の声が聞こえる。

「ルハーライト天界戦争！」

それを聞き終えたメアリは門を開けて顔を覗かせた。

「やつぱりさメアリ、毎回このクイズ形式の合言葉やめようぜ」

「ダメよ……バカなクロエのために勉強を踏まえたアイディアなんだから、ありがたく思いなさい」

メアリには恋を抱く男がいた……その男の名はクロエ。

これといって友達もおらず、男性に至つてはまともに会話すらしたことがなかったメアリだが……突然、ほぼ毎日教会に祈りを捧げにくるクロエに彼女は心を奪われた。

それは一目惚れだった。

「……なんでこんな冴えないヤツを」

ため息混じりに彼女がボソッと囁いた。

「ん？ なんか言ったか？」

「べ、べつに何でもないわよ。それより早くやること済まして部屋に来てよね。付け根が痛くて昨日はあまり眠れなかつたんだから」

メアリは左足を指差しながら言った。

「このに直したばかりなのにな」

メアリの左足は義足である。

十年前の丁度この日。悪魔達による戦争の巻き添えにより、彼女は左足を失つた。

クロエと知り合つてからメアリは、義足整合資格を持つ彼の患者である。

教壇の上に置いてあつたロザリオと聖書を取り、器用なメアリは慣れた足取りで階段を上がる。

クロエが側にいる安心感からか、普段はしまつている白い翼もバサツと豪快に開いてみせる。

「クロエの翼つて青白く光るつてホント？」

メアリは階段から身を乗り出し、下にいるクロエに言った。

「え……ああ、そんなとこかな。誰から聞いたんだ？」

「北の方に住んでる天使は皆がそぞらしいわ。クロエも北から来たらんでしょ？ 癒しの力があるんだつて、もしかしてクロエが作ってくれたこの義足にも癒しの力があるのかしら」

「ハハツ、まさか」

ぎこちない笑みを浮かべながら、クロエは聖域に立つ女神に祈りを捧げに向かう。

「クロエ？」

メアリはクロエの態度に違和感を覚え、彼の後を追う。

そして田撃してしまつ……黒い翼を生やしたクロエの姿を。

メアリは慌てて階段を上がり部屋に入ると鍵を閉め、ズルズルと扉に背を委ねて座り込んだ。腕を交差させて自らを強く抱き締めて震えだす。

「ウソ……ウソよ

「メアリ？」

ビクッと肩をすくませたメアリは扉越しにいるクロエに気付かなかつた。

「ねえクロエ、私に隠し事してない？」

「何言つてんだよ。いいから開けろよ、足見てやるから！」

「来ないで！ 汚らわしい！」

メアリは思わず叫んだ。

「アナタが悪魔だつたなんて……ビーして黙つてたのよ！」「見たのかメアリ！」

「私を殺す気？ 初めからそのつもりで私に近づいたの？ 神に祈りを捧げるなんて……何？ ソレって私を侮辱してるの？」

「聞いてくれメアリ、俺は……」

「この教会から出てつてよ！ 顔も見たくない！」

一瞬言葉を失うクロエ。

額を扉にコツンと当てるとゆつくりと口を開く。

「好きなんだ……メアリ」

「ウソ。悪魔はウソつきなのは知つてるわ。そつやつて生きてきた」「例えそもそも愛してる」とだけはウソじゃない

「そんなセリフなんていくらでもいえる……無理よ。天使と悪魔の恋は今まで叶わなかつた、クルーゼとロアだつて禁断の恋は実らなかつた。一人の子供がどうなつたか知つてる？ 三歳で火災りにされたのよ」

「俺達は違う！　お前が俺をそこまで疑つなり…………俺は」の場で聖水だつて飲んでやる！」

しばらく続く沈黙の中、メアリの脳裏に最悪のシナリオが流れ込む。

「ウソ！　バカクローハー！　お願ひだから…………」

勢いよく扉を開けるメアリの唇にフウと温もりが触れる。

「…………ん」

突然の口づけに言葉を無くすメアリ。

「悪魔はウソつきなんだろメアリ？　聖水なんて飲んだら俺死んじゃひじやんか」

「口づと笑いギュッと抱き締めるクローハー。

「でも…………好きだと悟つ」とはウソにはしないよ」

メアリの瞳に涙が溢れた。

「…………バカ」

(後書き)

短編作品に関して機会があれば、また気軽に書いていきたいと思います。

読者の方々のご感想があれば宜しくお願ひいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1533f/>

deep red a hood 『ショートストーリー その3』

2010年11月6日13時30分発行